



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

こんにちは!新JICA推進員です!

JICAデスク熊本 国際協力推進員 Ohno Ayako **大野 章子**さん

新しくJICAデスク熊本に着任しました国際協力推進員の**大野章子**です。20年ほど前に青年海外協力隊として中米のコスタリカ国にて、2年半ほど活動しました。職種(選考過程での専門分野分類)は美術です。配属先は国立工科大学の工業デザイン科。構成や色彩の講座のほか、インディオ(先住民民族)の天然染料の研究をしました。ラテン社会は、明るく人間性にあふれています。日本とは逆の価値観もあり戸惑うこともありましたが、人生を楽しむという価値観を学びました。

帰国後は、協力隊の訓練所勤務後、地元熊本の専門学校や印刷会社のアートディレクターを勤めました。

そして3年前、今度はJICAのシニア海外ボランティアとして、タイ王国に赴任しました。任地は北部のチェンマイです。職場は「第一地区産業振興センター」。旧ランナー王国である北部8県を管轄しており、約100名が勤務しています(正職員である公務員は3割)。ラッピングやパッケージの指導と、地場産業のデザイン指導が主な要請内容です。



赴任当時:産業振興センターのデスクにて

タイではラッピングのできる人は「技術者」として扱われており、包装紙やリボンを購入後、料金を払って包んでもらうシステムで

す。しかもそのサービスができるのは百貨店くらい。日本と同じく贈答文化があるタイでは、お金をかけないでプレゼントを綺麗に包むというニーズが思った以上にありました。着任早々、大学からの要請で、社会学習の一環としての「ラッピング講座」を開きました。地場産業のデザイン指導では、選出された小・零細企業(主にタイ版一村一品運動の優良企業)に、売れそうな新製品のデザインを提供するというものです。産業振興センターでは、これがサービスとして無料で行われます。

タイの代表的な産品としてシルクを連想される方が多いと思いますが、これはタイで相対的価値の低かったシルクに注目し、産業として成功させた元アメリカ軍人の功績です。通常使用されているのは綿製品。地域や部族により伝承の様様や刺繍があります。この技術を活かしての製品提案ですが、コピー文化のタイでは、見本を提供しそれを真似て作るのが一般的。それがまたコピー文化を生むという悪循環があります。

新しいデザインは提供しますが「なぜこのデザインなのか、なぜこの

商品なのか」、自分たちの技術の特性や他との差別化を意識し自ら考えられるよう、分析やアンケート結果など資料を基に説明し提供しました。提案した商品が店頭で並び喜びと売れ行きがどうなるかのスリルを同時に味わい、やりがいとなりました。



チェンライ県での新商品制作

一方、職場では、昔ながらの手工芸技術者が、日本の手工芸技術を吸収したいと関心を持っていました。タイに行かれる折は、日本の手工芸品のお土産は喜ばれますよ。タイの人々も手先は器用なので、いろんな技術や植物を利用したエコロジーな文化があります。その良さを失わないで発展してほしいと願っています。



チェンマイは祭りの多い所。パレードのひとつコマです。

さて、昨年11月より前任者から業務を引き継ぎ、JICAの新事業紹介や学校への出前講座、ボランティア事業の紹介などを行っています。国際協力に関心のある方や海外で活動をされるNGOさんなど、JICAがお手伝いできるような案件があればどうぞご相談ください。通常、月～金で熊本市国際交流会館内で勤務しております(イベントによっては週末も出勤。第2・4月曜は会館の閉館日なのでご注意ください)。ひとり事務所なので、外出の時はご伝言をお願いします。

私はふたつのJICAボランティア経験を経て、「グローバルはローカルに通ず」ということを体感しました。熊本の活性化に寄与しつつ、「グローバル」な人材が増えるよう、お手伝いできればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

JICAデスク熊本

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18
熊本市国際交流会館内

TEL/FAX:096-359-2130(直通)

E-mail:jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp
http://www.jica.go.jp